

長門ポッポを守る会

ポッポの日

2023年2月5日(日)天候[晴れ]
[13:20~14:30]

取材地

道の駅蛸街道西ノ市

レポート

長門ポッポを守る会は、小月から豊田町の間を大正7年から38年間沿線地域の発展に貢献してきた旧長門鉄道の存在を後世に伝承していく為に豊田、菊川、小月地区の有志で設立されました。

長門鉄道を走ってきた蒸気機関車101号機は、昭和22年滋賀県東洋レーヨンに売却され石山工場の引き込み線の入替え用に使用され、その後兵庫県宝塚市の宝塚ファミリーランド、京都加悦SL広場で移送展示されてきましたが、令和2年にSL広場が閉園されることを知った有志が「長門ポッポを古里に戻そう」と令和元年12月からプロジェクトを始動し、話し合いの末、広場を運営していた企業より無償で譲り受ける事となったそうです。伊藤会長はじめ会員たちは、移設に向けての準備資金集めを開始され、会員や市民等400人以上が寄付で協力し、市の補助金も活用して受け入れ準備は整えられ、皆の想いをのせた機関車はトレーラーに載せらせて、2日かけて豊田町に到着しました。

車輛の里帰りが実現したことにより、開業～廃線そして里帰りまでの足跡を記録に残す為、これまで収集していた資料や写真等をもとにして冊子「長門鉄道ものがたり」を製本・発刊されています。

沿線住民だけでなく多くの鉄道ファンに愛されている機関車 愛称「長門ポッポ」は現在「道の駅蛸街道西ノ市」の敷地内に展示されており、こちらでは「長門ポッポ」に因んで毎月第一日曜日は、機関車の運転席見学等ができる「ポッポの日」というイベントを開催しています。「長門ポッポ」の可愛い汽笛を聞きにイベントの日にお出かけになってみてはいかがでしょうか。

状況写真

伊藤修二会長



運転室



道の駅敷地内展示の様子



長門鉄道の歴史を
まとめた冊子
「長門鉄道ものがたり」



長門鉄道時代

西市駅で給水中の101号機



加悦SL広場時代



